カルメル

霊性センターニュース

2022年3月　　３８４号

３月号　【教会からの巻頭のことば】

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか」。

主よ、あなたは呼びかけておられます。信じるように呼びかけておられます。あなたがおられることを信じる、それだけでなく、あなたのもとに行き、あなたにより頼むようにとの呼びかけです。四旬節の今、あなたの差し迫った呼びかけが響きます。「今こそ、心から私に立ち帰れ」（ヨエル2･12）。

主はこの試練の時を選びの時とするよう求めておられます。あなたの裁きの時なのではなく、わたしたちの決断の時です。何が重要で、何が過ぎ去るものなのかをえり分ける時、必要なものとそうでないものとを見分ける時です。主なるあなたに対しての、他者に対しての、生きる道を定め直す時です。

わたしたちは、模範となる大勢の旅の仲間に目を向けることができます。不安の中にあっても、自らのいのちを差し出すことでこたえた人々です。勇気にあふれた私心のない献身に注がれてそれを具体化させるのは、聖霊の働きの力にほかなりません。わたしたちをあがない、生かし、わたしたちの生活が市井の人々――忘れられがちな人々――によって織りなされ、支えられていることを示してくださる聖霊のいのちです。そうした人々は、新聞や雑誌の見出しになったり、最新のランウェイに登場することはなくとも、まぎれもなく、この時代の決定的な出来事を今まさに書きつけているのです。医師、看護師、スーパーマーケットの従業員、清掃員、介護従事者、配達員、治安当局、ボランティア、司祭、修道者、そして他の多くの、自分の力だけで自分を救うことはできないと分かっている人々です。人類の発展の真価が問われるこの苦境の中で、わたしたちはイエスの祭司的祈り、「すべてを一つにしてください」（ヨハネ17･21）に触れ、身をもってそれを味わいます。どれほど多くの人が、毎日辛抱し、希望を奮い立たせ、パニックではなく共同責任の種を蒔くよう心掛けていることでしょう。どれほど多くの父親、母親、祖父、祖母、教師らが、習慣を変え、前向きになり、祈りを重ねるといった、何気ない日常の姿を通して、危機に向き合ってそれを乗り切る方法を子どもたちに示していることでしょう。どれほど多くの人が祈り、犠牲をささげ、すべての人のために執り成していることでしょう。祈りと、ひっそり行われる奉仕――それこそが、わたしたちを勝利に導く武器です。　　（2020年3月27日『パンデミック後の選択』p.27～28）

目次

教会からの巻頭の言葉・・・・・・・・・・・・・・・1

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・２３

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

キリスト教放送局 FEBC のご案内・・・・・・・３０

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・３１

郵送お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・・・３６

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７

心の泉

聖ヨゼフと幼きイエス像

第三巻

第四十七章　永遠の生命を得るために、どのような犠牲も耐え忍ぶ

１　主

《子よ、私のために背負った労苦にくじけるな、どんな試練にあっても失望するな。どんな場合にも私の約束に力づけられ、慰めを得なさい。私はあらゆる限度を超えてあなたに報いを与える。あなたが地上で労苦するのは短く、苦しみを受けるのも始終（しじゅう）ではない。忍耐して少し待ちなさい。そうすれば、まもなく不幸は去るであろう。すべての労苦と争いとがなくなるときも来るであろう。時と共に過ぎ去るものは、すべて小さく短い事柄である。

２　平和の訪れ

仕事は注意深くおこないなさい。ぶどう畑でよく働きなさい。そうすれば、私はあなたの報いとなるであろう(創世記 15・1 参照)。読み。書き、歌い、願い、沈黙し、祈り、勇気をもって苦しみを迎え入れなさい。永遠の生命は、そのような戦い、いやそれ以上の戦いに価するものです。主の定められた日、あなたの上にも平和が来るであろう。そのときには、今のような昼夜（ちゅうや）はなく、永遠の光明、無限の明るさ、ゆるぎない平和、安全な休息があるであろう。そのときには、「誰が私をこの死の体から解き放つのか」(ローマ７・24)と嘆く必要もない。また、「なんと不幸なのだ！私のさすらいの日は延びた」(詩編 120・5)、と訴えることもない。もはや死は滅ぼされ、救霊は完成し、何の不安もなく、完全な幸福と、快く美しい交わりがあるばかりである。

３　十字架の道

ああ、天の聖人たちの永遠の栄冠！かつてはこの世で軽蔑され、生きる値打ちのない人間とすら言われた人びとが、今、どれほどの光栄のなかに喜び勇んでいるかを見れば、必ずあなたは地上にひれ伏し、へりくだり、ただ一人の人の上に立つよりも、すべての人の下につきたいと渇望するであろう。また、この世の楽しみをうらやまず、ただ神への愛のため苦しむことを喜び、人々に無視されることを、大いなる利益と思うであろう。

日々 聖霊に導かれて

2022―３

三月の第一週の水曜日は灰の水曜日。今年もまたコロナ禍で四旬節を迎えます。この〆切原稿の日のイエスの言葉：

「私の後に従いたいものは、自分を捨て、
自分の十字架を背負って、私に従いなさい。」

「でも…それは難しい」と思う。日々自分の弱さを感じながらも、聖霊の導きに生きていたテレーズ。そのテレーズの姉セリーヌへの言葉：

十字架を担えば　途中でくじけてしまうと恐れるのですか？
イエスさまもカルワリオへの道すがら　三度も倒れました。
必要なら百度でも倒れ　さらに勇気を込めて立ち上がり
主への愛を証明したいと思いませんか？　＊1

イエスは、こうして歩んでいかれる。
あざけりはやむことなく
兵士達の暴力もやむことはない。 ところが
そこに　一人の勇気ある女性があらわれる。
家から出て　近づくことができないため
イエスに布きれをなげてよこす。
イエスは　その布を拾い　顔と手をぬぐわれる。
血と汗にまみれた　その顔を。
布は　女に返され　女は　宝物のようにその布を持ち帰る。
家に帰ってみると 布には　イエスの面影が写しだされていた。
それが、女の勇気ある行為　愛のわざの報い。
イエスよ 私たちのうちにも、あなたの面影を刻み込んでください。
愛と苦しみの面影を。＊2

その時 聖母はなおも十字架の下に留まって、
おん子のように苦しむことを私に教えられます。
そして　聖母のほか誰も聞き取ることのできなかった
主の魂の最後の歌を　私に聞かせようと望まれます。＊3

伊従 信子（いより のぶこ）
ノートルダム・ド・ヴィ

＊1「弱さと神の慈しみ」　サンパウロ　伊従編訳
＊2 マリー=ユジェーヌ神父 ocd の十字架の道行き
＊3「いのちの泉へ」三位一体のエリザベット　ドン・ボスコ社　伊従編訳

創造主への賛美（51）

「敵をも愛せ」というキリストの教えは、崇高な教えである。この教えの前には、だれもが不完全であることを認めざるを得ないであろう。平行箇所のルカ福音書では、こうなっている。

敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしなさい。悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。

マタイでは「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」とより簡潔になっている。ちなみに、マタイの読者は律法を熟知しているユダヤ人であるので、旧約の対比の中でこの教えが述べられるのに対し、ルカでは律法をほとんど知らない異邦人を相手にしているという違いがある。だが、旧約の「隣人を愛し、敵を憎め」という考えは、律法を知っていようがいまいが、すべての国のすべての人が当然このこととして受け取っているのではないだろうか。

戦争が勃発すれば、自分の夫や息子が兵士として戦い、命を失うかもしれない。現在では飛行機の爆撃によって老いた両親や幼い子供が犠牲になるかもしれない。敵を憎むのが当然であると。

しかし、キリストは言う。「敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしなさい」。そんなことは、到底無理だ、不可能だと言うしかないという声が聞こえてくる。爆弾発言。常識をひっくり返す革命的な発言である。

「悪口を言う者に祝福を祈ること」、「侮辱する者のために祈ること」、これは努力すればできそうにも思われる。だが、心からそうすることは、そう簡単ではないだろう。口では祝福しながら、心の中では呪っているかもしれない。

けれども、それらのことは、「人間にできることではないが、神にはできる」（マコ 10・27）のである。なぜなら、「父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである」（マタ 5・45）。人間の地平にとどまっているかぎり、不可能である。しかし、そこから引き上げていただき、自分の努力ではなく、聖霊の助けによって、人を裁くことなく、敵味方の区別や好き嫌いの感情を超えて、すべての人を父のこころをもって、等しく愛することができるようになるのである。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（166）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

十字架の聖ヨハネはストックホルム症候群に苦しんでいた？(1)

彼に見られる症候群は、無数の試みに対する勝利であった？

このエッセイのタイトルは、ちょっと奇異に思われることでしょう。けれども、そうではないのです。ヨハネは、1578 年の末にアンダルシアに到着しました。このとき、トレドのカルメル会の牢獄で受けた身体的心理的ダメージからまだ回復していませんでした。彼は、その年の 8 月中旬、自分のすべてを危険にさらし、トレドの牢獄から脱走したのです。1581 年になってもまだアンダルシアでは生きるのがやっとだったのです。そこでは何年も後になり、幸せになります。グラナダに住みながら、全アンダルシアを倦むことなく旅行しました。十年間アンダルシアで過ごすことによって、あらゆる道が、彼にとってなじみあるものとなりました。

「症候群」にもどりますと、トレドで第二番目に看守となった者が、ヨハネ修父は、「だれかにそのことを嘆いたり、彼をそのような目に合わせた人々を断罪するのを、一度も見たり聞いたりしなかった」と証ししていることを忘れてはならないでしょう。監禁は、1577 年の 12 月から 1578 年の 8 月まで 9 ヶ月続きました。逃亡のまさにその日に、彼がほとんど憔悴しきって、トレドの跣足カルメル会修道女に幽閉について語ったとき、彼は自分を投獄した人々を強く弁明しました。

彼らは良いことをしていると思っていたと言うことによって、彼らを赦し、罪に定めないヨハネのこの態度は、ほとんど賛美に近いものでした。彼らについて悪く言うことを、彼は決して許しませんでした。牢獄を、あるノスタルジアをもって、「私の小さな牢獄よ」と呼んでいました。そしてある時には、「どうか神と二人きりになれるところへ、今私が幽閉されますように」と叫ぶほどでした。

テレジアの改革運動は、十字架のヨハネの自由に対し、何をもって報いるべきなのでしょうか。

(P. 九里訳)

四旬節 第１主日

（ルカ４：１−１３）

イエスは四十日間、荒れ野で断食をし、空腹を覚えられました。そこに悪魔が現れ、イエスを誘惑しました。悪魔の誘惑は次の三つのことです。
「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」
「この国々の一切の権力と繁栄とを与えよう。もしわたしを拝むなら。」
「神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ。」

これらの誘惑を、イエスは聖書の言葉をもって退けられました。
「人はパンだけで生きるものではない。」（申命記８・3）
「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ。」（同６・13、10・20）
「あなたの神である主を試してはならない。」（同６・16）

イエスが受けた誘惑は、私たちにもいろいろなかたちで忍び寄ってくるものです。
「石をパンに」という誘惑は、何が何でもパンを得ること、それが一番大事、という感覚です。食べること、楽しむこと、稼ぐことこそ全て、という価値観にも通じます。イエスは、それが全てであってはならない、一番大切な糧は神の言葉であると言うのです。つまり、心を養う永遠のみ言葉こそまず大切だということです。
「権力や繁栄を与えよう」。これも、多くの人を惹きつける魅力です。偉くなりたい。有名になりたい。金持ちになりたい。支配したい。しかし、もしそれを目的として突き進む時、人間は大切なものを見失います。神様が与えた人間らしさ、心の美しさや謙虚さを失う危険があります。知らず知らずのうちに、悪魔の醜さを身に着けてしまいます。
「ここから飛び降りたらどうだ」。これは、危険なことにあえて身をさらす誘惑です。暴走行為です。それは、車の暴走だけではなく、生活の暴走、飲食の暴走、薬の暴走、男女関係の暴走など、様々です。人間はいろいろなところで、「これくらいは大丈夫」などと言って、道路標識である神の掟を無視し、危険なことを行おうとします。その果てに悲劇が待っていることも知らずに。

以上、私たちが、しばしば受けるこのような誘惑にイエスも遭われました。しかし、イエスはそれらすべてを適切に退け、神様にしっかりと結ばれていました。すでに見たように、イエスは神のみ言葉を大切に心に納め、み言葉に照らされて悪魔の罠を見破りました。

もう一つ、イエスが見せた大切な姿があります。「イエスは聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった。」そして、荒れ野の中で断食したと書いてあります。イエスは聖霊に満ちていたのです。神様の霊、神様の愛である聖霊に満ちていたからこそ、そのような危険な誘惑に立ち向かうことができたのです。

み言葉が無ければ、また、聖霊が無ければ、誘惑にすぐに負けてしまいます。多くの人が誘惑に陥るのはそのためです。四旬節が始まりました。あらためて神の言葉で心を養い、神の愛である聖霊で心を潤していただくように努めなければなりません。復活祭、洗礼の時に与えられた恵みを取り戻し、それを深め、悪霊の罠を退ける感覚を養いましょう。

（今泉健 神父）

四旬節 第２主日（C）

（ルカ９：２８ｂ－１３、３６）

「これはわたしの子、選ばれた者、これに聞け」

ご変容について、ルカの描写はほかの福音書にはない詳細を伝えています。使徒たちが眠っている描写から、この場面は夜に起こったことかもしれません。旧約の偉大な人物であるモーセとエリヤが、キリストの来たる受難についてキリストと話しています。これは、キリストの脱出――死においてこの世から出るキリストの旅、そしてキリストの復活のことです。

四旬節の第二主日、祈りの重要さについて読みます。これは神がこの聖なる季節の間に私たちに与えたいと思う恵みを受け取るのに最も効果的な方法です。福音の中で、イエスは一番身近な三人の弟子を忙しい生活を離れて高い山の頂上まで導きます。ここではイエスは彼らとだけになります。イエスは、彼らが祈りにおいて神の現存を個人的に経験するように望んだのです。イエスは常にイニシアティブをとり、私たちを常に祈りに招き、私たちは応えるだけです。そのため祈るために一番よい心の持ちようは、神に心を開くことです。

福音の中で私たちは御父の声が、「これはわたしの子、選ばれた者、これに聞け」というのを聞きます。これはイエスの神性の直接の確認です。イエスは、神の独り子です。イエスを信じるということは、私たちの信仰を表すということを意味するだけでなく、イエスの全ての言葉と命令に従うということです。そこには、「もし・・」とか、「しかし・・」ということはあるべきではありません。私たちは躊躇することなくあらゆることにイエスに従わなければなりません。私たちの生活は、イエスの教えと模範に一致していなければなりません。人はエウカリスチアにおいてイエスの真の現存を疑うときがあります。妊娠中絶により産れていない赤ちゃんを殺して、神の掟に背く人がいます。小さな問題で離婚する人がいます。イエスへの信仰はそれを告白するだけではありません。私たちの日常生活の中で見えるもので、生きているものであるべきです。

四旬節は、私たち自身の個人的変容への呼びかけです。四旬節は私たちが罪深い行い、態度、行動から立ち上がり、聖で、善良で、清い生活へ向かう豊かなお恵みを与えてくれます。

(Sr. Paulina)

四旬節 第3主日

（ルカ１３：１－９）

四旬節も第３主日を迎えました。自分自身を見つめ直して神に立ち返り、復活祭へと向かって歩んでいる私たちですが、今日の福音のイエス様の言葉は、その様な私たちにあらためて力強く、神に立ち返るようにと語りかけてくださる言葉ではないでしょうか。

冒頭、ガリラヤ人たちの災難の話が出ますが、彼らが他のガリラヤ人よりも罪深い者だったからではないと言われます。そして、悔い改めなければ皆同じように滅びるとも。
そして人々が神に立ち返って、悔い改めるように、神がどの様に私たちのことを想っておられるか理解させるため、イエス様は「『実のならないいちじくの木』のたとえ」の話をされました。

ある人がぶどう園に植えられたいちじくの木。実がなる様にと望まれて、期待されて植えられたいちじくの木。実がなると思い、その人は３年もの間、実を探しに来たが、実がなっていなかった。そして世話をしている園丁に「切り倒せ」と言ったわけです。　園丁は、御主人様に、「このままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。そうすれば、来年は実がなるかもしれません。もしそれでもだめなら、切り倒してください。」と嘆願します。このいちじくの木のために執り成しをします。

この園庭の姿が、神様の私たちへの想いの姿。神の恵みを受けた私たち、受けている私たちが成長し、実を結ぶように、滅びることのないように、救われるようにと願っておられるのですね。

私たちの救いのために、神の子御ひとり子は人となられ、私たちのところに来られて私たちのため十字架につけられ、命をささげて下さいました。その救いの御業によって私たちは信じて洗礼を受けることによって神の子とされ、今を歩んでいます。

神の恵みを豊かに受けている私たち、神の子としてふさわしい歩み、ふさわしい実りがないなら。悔い改めないならば滅んでしまうことになりかねないのですね。私たちの救いを望んでおられる神の想いを心にしっかりと受け止めて、神に立ち返って、ともに歩んでゆくことができますように。

（Fr.　古川利雅）

四旬節 第４主日（C）

（ルカ１５：１－３、１１－３２）

本日は、「レターレ(Laetare。喜び)の主日」と呼ばれる四旬節第４主日で、罪と死に打ち勝ったイエスの勝利を待ちわびる復活主日の喜びを思い巡らします。ミサの司式者は、四旬節の紫色ではなく、喜びを表すバラ色の祭服を着用します。復活に近づく私たちは、悔い改めの季節のただ中にいながらも、喜びをほんのひと時味わうのです。

今日の福音は、有名な放蕩息子の話です。「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」というファリサイ派の人々と律法学者たちの不平を聞いたイエスは、その不平をとがめる代わりに、神と罪人との間の関係性に関する本質的な事柄を新たに教えました。このたとえでは、放浪時に付きまとう、揺れ動く不安が存分に描かれています。遠い国でさまよった放蕩息子は、家に帰る必要性に気づきます。我が家ほど愛に満ちて温かい場所はないため、放蕩息子は、家に戻るまで平和と幸せをどこにも見つけられませんでした。ただ、家に帰るのはたやすくありませんでした。赦しを願い出る勇気だけでなく、自分の家で雇い人の一人として仕えるという謙虚さも必要でした。さらに、堕落した日々を過ごして財産を食いつぶしてしまったという恥も受け入れなければなりませんでした。そんな彼の頼みの綱は、最愛の父親でした。放蕩息子が家に戻ると、父親に大歓迎され、帰郷と和解の大きな喜びのうちに祝宴が開かれます。

このたとえに登場する父親は、いつくしみ深い天の御父のことです。天の御父は、あわれみ深い愛を惜しみなく注ぎます。放蕩息子のたとえは、痛悔の例として取り上げられる場合が多いですが、実際には、神が痛悔した罪人をどのように赦して癒すかを描いています。四旬節は、神のみことばを黙想し、これを自分の生き方に反映させる期間です。もし福音の教えからかけ離れた生活をしているならば、御父のみ前に進み出て、自分の罪を告白し、御父から温かく抱きしめてもらいましょう。

(Sr.Paulina)

いのちの言葉 ３月

わたしたちの負い目を赦してください。
わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。
(マタイ 6:12)

今月のいのちの言葉は、イエスが弟子たちに教えられた「主の祈り」から引用されています。この祈りは、ユダヤ教の伝統に深く根ざした祈りです。事実、ユダヤの人々は昔から、「私たちの父よ」と神に呼びかけ、今もそう呼んでいます。

このみ言葉を最初読むと、一瞬戸惑いを感じるかもしれません。ギリシャ語のテキストには、負い目のある人を私たちが赦したと同じように、私たちの負い目を赦してくださいとあります。しかし、私たちは、このように神からの赦しを得られるのでしょうか？　何故なら、私たちの赦しには非常に限界があり、表面的で、条件付きであったりするからです。

もし神が、私たちの赦しの尺度で扱われるならば、私たちは神から厳しい責めを受けることでしょう。

わたしたちの負い目を赦してください。
わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。

しかしながら、このみ言葉は非常に重要な言葉です。何よりもまず、私たち自身「神からの赦し」が必要な存在であると言い表しているからです。弟子たちにこのみ言葉を託されたのはイエスご自身であり、こうして洗礼を受けたすべての人々に伝えられました。イエスはこの祈りを通して、私たちが素直な心で御父に赦しを願えるようにして下さいました。

イエスの内に神の子どもである私たちは、イエスの兄弟姉妹であり、イエスに倣う者です。ここからすべてが始まります。事実イエスは、御父の愛に満ちたみ心に全面的に従う道をいちばん最初に歩まれた方だからです。

私たちは、神からの贈り物、その「尺度のない愛」を受け入れることによって、父なる神にすべてを願うことができます。　いっそう御父に似た者として下さるように、そして日々、私たちが、寛大な心で兄弟姉妹を赦せるように、とお願いできるでしょう。

「赦す」という行為は、自由で意識的な選択です。そして、常に謙虚な心であらたにされるべきものです。それは（赦すこと）決して習慣とはなり得ず、多くを求められる生き方なので、イエスは、日々の糧と同じように、赦しのためにも祈りなさいと私たちにおっしゃいます。

わたしたちの負い目を赦してください。
わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。

ところで、私たちも共に暮らす家族や近所の人、あるいは、職場や学校で出会う人と不快な体験をしたことがあるかもしれません。そして、それ以来、その人と良い関係がもてないでいるかもしれません。そんな時、私たちも、御父に倣い赦しの恵みをお願いできるでしょう。

キアラ.ルービックは語ります。「…朝起きたら、完全な”赦しの心“を抱きましょう。相手の限界や難しさも含め、その人をありのまま受け入れる愛を心に抱きましょう。母親は、子どもが過ちを犯しても常に子をかばい、赦し、希望を失わないものです。私たちもそうありたいものです。… 相手がその欠点に一度も陥ったことがないかのように、新しい目で見ながら一人ひとりに接しましょう。神は人を赦してくださるだけではありません。犯した過ちさえも忘れ去ってくださるお方です。これを心に留めいつもやり直しましょう。神は、私たちにもこのような尺度をお求めになるのですから。」[1]

信頼に満ちた祈りに助けられながら、私たちもこの高い目標に向かって前進しましょう。

わたしたちの負い目を赦してください。
わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。

主の祈り全体は、「私たち」という視点に立つ祈りであり、兄弟的な祈りです。自分のためだけでなく、他の人のために、他の人と共にいのる祈りです。私たちの赦しの能力は他者の愛によって支えられ、また同時に、兄弟の犯した過ちに対しても、「もっとよく受け入れて理解してあげていたなら。私はできる限りのことをしただろうか？」このように、私たちの愛は兄弟に対しても何らかの責任を負うものと言えるでしょう。

イタリアのパレルモでは、キリスト者の共同体の間で協力関係があり、対話も盛んです。しかし、時には困難に出会うこともあります。ビアッジョとジーナの体験です。「知り合いの神父さまから、彼の教会に所属するご家族を紹介されました。ある日、私たちは昼食をもってご家族を訪問しましたが、彼らの態度から私たちは『招かれざる客』であったと感じました。それでもジーナが、『私の手作りの料理です。どうぞ召しあがって！』とやさしくみんなを招いたので一緒に食事をすることになりました。食事がすむと、彼らは私たちの教会の欠点を指摘し始めました。口論にならないようにと気遣いながら、『教会に欠点や誤りがあったとしても、お互いに愛し合うために、それがいったい何の妨げになるでしょう？』と私たちが言うと、批判されることに慣れていた彼らは、この言葉に驚き、一瞬のうちに氷が溶けるのを感じました。私たちは福音と私たちを結ぶ絆について話しましたが、これこそ私たちを分断させるものよりもはるかに偉大なものでした。彼らが私たちとの別れを残念がったので、『では最後に、ご一緒に「主の祈り」を唱えましょう』と提案しました。祈りの間、私たちは、神の存在をとても強く感じました。別れ際、彼らは、『他の仲間にも皆さんを紹介したいので、また必ず戻ると約束してくださいますか』と。それ日以来、彼らとの関係は今もずっと続いています。」

わたしたちの負い目を赦してください。
わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。

レティツィア・マグリ

＊いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1 キアラ.ルービック、「いのちの言葉」2004 年 12 月

連絡先：フォコラーレ　東京 03-3330-5619/03-5370-6424　長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@gmail.com　ホームページ：https://www.focolare.org/japan/

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< **Communications**（時事通信）>>　　２０２１年２月２日

跣足カルメル修道会総長のポーランド訪問

2021年は幼きイエスのカルメル修道女会にとって記念の年でした。ちょうど100年前の12月31日にこの修道女会は、神の僕アンセルム・ゴンデグ神父O.C.D.と神の僕 シスター テレサ・ヒーロシンスカ C.S.C.I.I.によって創立されました。

現在この修道会には450名のシスター達がいて11ヶ国で居住し奉職しています。ミゲル・マルケス・コッレ総長は、昨年12月31日にポーランドのソスノヴィエツでその記念式典に参列されました。記念ミサでは、現地教区のグジェゴルツ・カザック司教司式のもと総長が創立記念を祝

して説教をされました。

2021年12月27日から2022年1月2日までのポーランド滞在で、総長はいくつかの男子と女子の修道院共同体を訪問されました。12月27日にはポズナンの常設共同体、学生寮とズウォラの共同体の人々に会われました。翌日、ワルシャワ（管区本部とソレック）の二つの男子修道院と1つの女子カルメル会修道院を訪問され、12月29日と30日は、クラクフの二つの共同体、クラコフ・センターの養成共同体と管区本部の人々に会われました。

続いて、クラクフのウェソワとウォブクの女子修道院を訪問され、最後に“総長のポーランド訪問コミュニケーション３７３（01.2022.2）”、このサイトでは、チェルナとクラクフのカルメル宣教修道女会を訪問されました。総長は、ソスノヴィェツの創立記念式典の後、さらにプシェミシルに向かう途中でタルヌフとジェシュフの女子跣足カルメル修道会も訪問されました。

1月元旦に総長は、プシェミシルの男子跣足カルメル修道会の教会で荘厳ミサを捧げ、シスターたちを訪ねられ、ラティニのプシェミシル大司教区のアダム・サル大司教と昼食をともにされ、午後にはルブリンの男子修道院とダイスの女子修道院を訪問されました。

総長にとってこの訪問の旅は、短期間での集中的な行程でしたが、ポーランド全土にわたる多くのカルメル会共同体とより親しく交流し、彼らの喜びと思いを知る良い機会となりました。

（翻訳：小宮山延子）

糸巻き棒からペンへ(73)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

この時から聖女は、毎日、少なくとも沈黙の祈りを一時間行うよう努めました。修道院にもどってからは、日々の生活は、共同の祈り、霊的読書、個人的な祈り、病人の世話、面会室で訪ねてくる人々への対応などにふりあてられました。多くの人々が、彼女を模範的な修道女とみなしました。けれども彼女は満足していませんでした。というのも自分の心が分裂しているのを感じていたからです。「一方では神が私を呼ばれ、他方では私は世に従っておりました。神に関するすべてのことが私に大きな慰めをもたらす一方、世のことが私を束縛していました。私はこれらの二つの反対なことを、両立させようとしていたかのようです」(『自叙伝』7,17)。

聖女が霊的生活の頂点において、過去の思い出を書こうとしたとき、そのすべての時間を、神の愛への裏切り、失われたもの（放蕩）とみなしました。神からたくさんの恵みを受け取っていたので、それだけ無条件に身を任せ、神との友情に生きるよう神に対する恩義を感じていたのです。とても不完全であると感じていましたから、主が彼女に与えた恵みは、彼女をへりくだらせるばかりでした。「あなたは私の罪を、大きな恵みをもって罰せられました」(同上)。この緊張状態の中に、神が彼女を全面的に打ち負かすまで、十年間とどまりました。

彼女が 39 歳のとき、傷つけられたキリストの像の前で決定的な回心をしたこと（同 9,1）は、すでに述べました。この時から、祈り（念祷）は、他のすべてのことがらに意味を与える中心的な仕事となったのです。

(P.九里訳)

カルメル誌　新刊案内

2021年 冬号 No.383

信仰生活(再)入門(15)　聖書に学ぶ祈りの道(7)
—「聴くこと」と「祈ること」
片山はるひ

道の霊性(8)—天使が守る道　田畑邦治

カルメルにおける「幼きイエス」　伊従信子

聖ヨセフ　ポーリン・フェルナンデス

キリストの説かれた　幸いなる道(4)　九里　彰

霊的研究会講義録(14)－聖書・祈り・愛について
奥村一郎

2021年 特集号
「向こう岸に渡ろう」
—パンデミック後の選択—

向こう岸に渡ろう
—四旬節：パンデミックの中での過ぎ越し
中川博道

人類は新たに生まれねばならない
九里　彰

神のいやしを行うイエス・キリストをみつめて…
—フランシスコ教皇さまの連続講話
「この世界をいやす」についての考察
松田浩一

同じ舟に乗る者たちとして
—『つながり』の霊性を求めて　若松英輔

何も咲かない寒い日—今を問う　大瀬高司

ご案内　　1 冊 580 円　A5 サイズ　50～70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760 円【580 円（+送料 180 円）】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年 5 冊：春夏秋冬+特集号　計　3,600 円）を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457　跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25　Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新書紹介　　十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書　　翻訳刊行

『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話

〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス
訳者：九里 彰
判型：B6 判並製
ページ数：184 ページ
価格：本体 1,600 円+税
ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016
発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアーヌム教授。2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里　彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美　編

A５判・312 頁・2500 円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など――危機にさらされている人間の救済の道を探る。

――――目次――――

序　「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
1　東日本大震災と宗教／中下大樹
2　宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
3　東日本大震災に思うこと／佐藤純一
4　脱原発の倫理／久保文彦
5　何のために働くのか／神谷秀樹
6　グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
7　私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
8　関係の倫理学／清水正之
9　宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
10　V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
11　「神の子となる」――カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
12　「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
13　エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所　TEL:03-3322-7601　FAX:03-3325-5322
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

サンパウロ

愛と英知の道

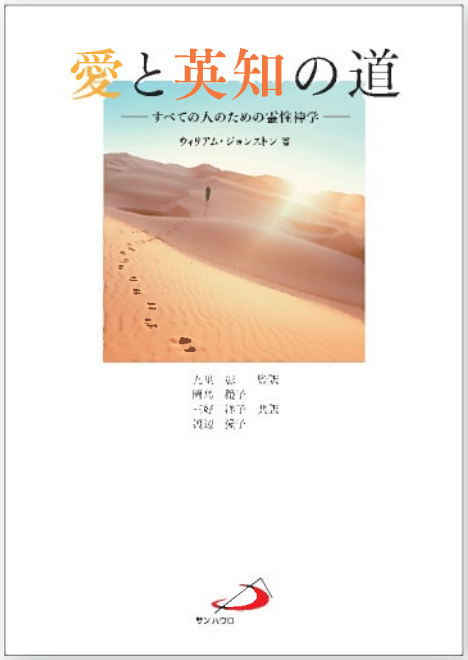
―― すべての人のための霊性神学 ――

ウィリアム・ジョンストン 著

九里　彰　監訳
岡島　禮子　三好　洋子　渡辺　愛子　共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21 世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。『すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが 16 世紀に向けてなしたことを、21 世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渇望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。



第一部　キリスト教の伝統
第1章　背　景（1）
第2章　背　景（2）
第3章　理性 対 神秘主義
第4章　神秘主義と愛
第5章　東方のキリスト教
第6章　愛を通して生まれる英知

第二部　対　話
第7章　科学と神秘神学
第8章　修徳主義とアジア
第9章　神秘主義と根源的なエネルギー
第10章　英知と〈空〉

第三部　現代の神秘的な旅
第11章　信仰の旅
第12章　浄化の道
第13章　暗　夜
第14章　〈愛のうちにある〉
第15章　花嫁と花婿
第16章　一　致
第17章　英　知
第18章　活　動
第19章　社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン　William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26 歳で来日。
32 歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルペ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85 歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1　C0016

福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて

十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5　C0195
定価**540**円（税込）
【聖母文庫】287

第2版 好評発売中！

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。（「はじめに」より）

神と親しく生きる
いのりの道

福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著
伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7　C0195　【聖母文庫】246
定価**540**円（税込）209頁

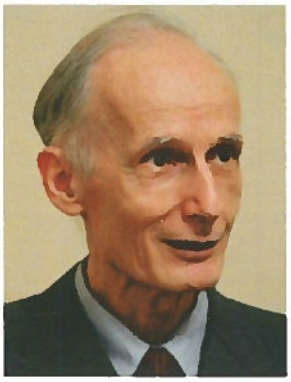
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8　C0195　【聖母文庫】268
定価**648**円（税込）281頁

ご注文・お問い合わせ先
聖母の騎士社　〒850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080　FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

カルメル会の企画案内

カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

東京 上野毛 霊性センター

黙想企画　＊＊上野毛 聖テレジア修道院（黙想）＊＊
（２０２２年～）

・祭日のミサに参加するために
　　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

【聖週間】

聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。
　　４月１４日(木)夕食～４月１７日(日) 朝食 ≪講話なし、各食３付≫

【クリスマス】
　　１２月２４日(土)～２５日(日) 朝食 ≪講話なし、夕食なし≫

・聖書深読黙想会（土曜日１７時～日曜日１６時）　大瀬高史 神父
　３月１２日～１３日
　４月２３日～２４日
　６月　４日～　５日
　７月１６日～１７日
　９月　３日～　４日
　１１月　５日～　６日

　２０２３年
　２月２５日～２６日

・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》（水曜日１０時～１６時・昼食付）カルメル会士
　　３月１６日　　４月２０日　　５月１８日
　　６月１５日　　７月２０日　　９月２１日
　１０月２６日　１１月１６日　１２月２１日
　２０２３年　　１月１８日　　２月１５日　　３月１５日

・キリスト教霊性入門（木曜日１０時～１６時　昼食付）　松田浩一神父
　　３月１０日　４月７日　５月１２日　６月２日
　　７月７日　９月１日　１０月１３日　１１月３日　１２月８日
　２０２３年　１月１２日　２月２日　３月２日

・一泊黙想会　（土曜日１６時～日曜日１６時）　カルメル会士

３月１９日～２０日
５月１４日～１５日
７月２３日～２４日
９月１７日～１８日
１１月１９日～２０日
２０２３年
１月１４日～１５日
３月１８日～１９日

・奉献生活者のための黙想会　（初日１７時～最終日朝食）　カルメル会士

８月　１日(月)～１０日(水)
８月１６日(火)～２５日(木)
１２月２７日(火)～２０２３年１月　５日(木)

・青年黙想会(男女)　３５歳まで(初日１６時～翌日１６時)　カルメル会士

３月２６日(土)～２７日(日)

・召命黙想会(男女)４０歳まで(初日１６時～翌日１６時)　カルメル会士

１１月１１日(金)～１３日(日)

・カルメル会召命黙想会(男子)４０歳まで（初日１６時～最終日１６時）
カルメル会士

４月　２日(土)～　３日(日)
７月　９日(土)～１０日(日)
１０月２９日(土)～３０日(日)
２０２３年
２月　４日(土)～　５日(日)

・特別黙想会(初日２０時～最終日１６時)Sr.伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

５月２７日(金)～２９日(日)
１１月２５日(金)～２７日(日)

＊　日程、指導司祭は変更される可能性もあります。 お申込みの際には、ホームページ（http://www.carmel-monastery.jp）なども合わせてご覧下さい。
＊　こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
＊　間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・E メール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院(黙想)
Tel:03-5706-7355　　Fax:03-3704-1789
E メール：mokusou@carmel-monastery.jp
ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の霊性を生きることをとおして教会に生涯を奉げる道があります。
聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証ししていく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思います。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2021 年　4 月 10 日（土）～11 日（日）　16 時～翌日 16 時

6 月 12 日（土）～13 日（日）　〃

10 月 9 日（土）～10 日（日）　〃

12 月 11 日（土）～12 日（日）　〃

2022 年　2 月 26 日（土）～27 日（日）　〃

会費：¥5000（3食付き）

＊お問合せ　お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
TEL.03-5706-7355　FAX.03-3704-1789
Eメール　mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル青年黙想会

イエスを求めて

日　時　：　2022年3月26日（金）16時 ～ 27日（日）16時
場　所　：　カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
対　象　：　**青年男女（16歳～35歳まで）**
定　員　：　９名
費　用　：　一般　５，０００円　　学生　３，０００円
締　切　：　2022年3月19日（金）
指　導　：　カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・ＦＡＸ・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093　世田谷区上野毛2－14－25
カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
電　話：　０３（５７０６）７３５５
ＦＡＸ：　０３（３７０４）１７８９
E-mail：　mokusou@carmel-monastery.jp

宇治カルメル会　黙想会案内
(2022 年度～)

３月８日より黙想会を再開致します。

【一般のための黙想】　中川博道神父
１泊２日（土曜午後５時～日曜午後４時）
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始
３/１２～１３　４/９～１０　４/９～１０　６/４～５
９/１７～１９(２泊)　１０/２９～３０
２０２３年
１/１４～１５　２/１８～１９

【聖書深読】（午前 10 時～午後４時）中川博道神父
３/１９　４/２３　５/２８　６/２５　１０/８　１１/１９
２０２３年
１/２８　２/２５

【水曜黙想会】（午前 10 時～午後４時）中川博道神父
３/１６　５/１８　６/１５　７/１３
９/２１　１０/２６　１１/２３

【ゴールデンウィーク黙想会】　中川博道神父
４/２９(金)夕食～５/６(金)朝食
参加期間は、全日通しでもどの曜日からでも自由です。

【カルメルの霊性】（午後５時～午後４時）中川博道神父
幼きテレジア　１０/１(土)～２(日)
十字架の聖ヨハネ　１２/１７(土)～１８(日)

【奉献生活者の黙想】（午後５時～午前９時）一般可
７/２３(土)～８/１(月)　中川博道神父
８/４(木)～１３(土)　松田浩一神父
９/５(月)～１４(水)　中川博道神父
１０/１３(木)～２２(土)　中川博道神父
１２/２７(火)～１/５(木)　中川博道神父

【祭日のミサに参加するために】

＊＜聖週間を祈る＞

チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１：３０
聖木曜日から復活祭まで通しでどの曜日からでも参加可。(講話なし 食事つき)

＊＜クリスマス＞

１２/２４～２５
チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１：３０
(講話なし 食事つき)

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸ、はがき、Ｅメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前９時～午後５時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合せ下さる様にお願い致します。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016　Fax　0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/

キリスト教放送局 **FEBC** 2021.10〜2022.3

2021年秋冬 番組案内

AMラジオ放送 AM1566kHz 毎夜9:30〜〈全国放送〉

インターネット放送 www.febcjp.com〈毎日更新〉

日

夜9:30〜

全地よ 主をほめたたえよ

主日礼拝取材番組

[第1]日キ教会 高知旭教会
[第2]日基教団 石動教会
[第3]ホーリネス教団 東京中央教会
[第4]日基教団 小岩教会
[第5]日基教団 久万教会

[第1、2、5]夜10:27〜
神からのメッセージ
グレゴリオ聖歌
橋本 周子
聖グレゴリオの家 宗教音楽研究所所長

[第3、4]夜10:27〜
聖歌を味わう(再)
[10〜12月] テゼ
['21.1〜3月] 正教会

月 火 水 木 金

[月〜金] 夜9:30〜
FEBC TODAY ー今日の聖書・今週の讃美歌ー
恵子の郵便ポスト
FEBCメイン・パーソナリティー 吉崎 恵子

夜9:48〜
聴く信仰
「いのち」をいただく御言葉黙想
山内十束
カトリック・御受難修道会 宝塚黙想の家司祭

新 夜9:47〜
ダビデのひこばえの到来
竹森満佐一
日基教団元牧師

夜9:47〜
嘆きに応える神の御言
金田聖治
日キ教会 上田教会牧師

夜9:47〜
Session ーイエスのTuneに合わせて
早矢仕宗伯 「NCAMイエスの風」牧師
塩谷達也 ゴスペルシンガー
長倉崇宣

夜10:14〜
Echo of Voices
長倉崇宣

夜10:14〜
主に向かって歌おう
飯 靖子
日基教団霊南坂教会 聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10:11〜
五十嵐ジュンの The Contemporary Christian Music

新 夜10:14〜
主よ、人の絶望を担うキリストよ
関野和寛
日本福音ルーテル教会牧師、チャプレン

夜10:28〜
御足の跡を
小池与之祐
日基教団 神の愛キリスト伝道所牧師

夜10:28〜
FEBC Sprout!
長倉崇宣

夜10:28〜
ふらっとトーク
中川信一 長倉崇宣

夜10:28〜
聖書を開こう
山下正雄
RCJメディアミニストリー代表

[第1]夜9:37〜
イエスとの対話の旅 ー現代霊性神学講座
中川博道 カトリック・カルメル会宇治修道院司祭

[第1]夜10:25〜
外からの「声」 ーFEBC HANGOUT!

[第2]夜9:37〜
イエスの、ことばの、その根(再)
雨宮神父の福音書講座
雨宮 慧 長倉崇宣
カトリック東京教区司祭、上智大学神学部名誉教授

[第3・4]夜9:37〜
生きるとは、キリスト
小林和夫 ホーリネス 東京聖書学院教会牧師

[第3・4]夜10:20〜
MeguのCCM insight!

土

夜9:30〜
ボンヘッファー著『共に生きる生活』を読む(再)
江藤直純 ルーテル学院大学前学長
吉崎恵子

夜9:53〜
Kishikoのひとりじゃないから

[第1〜3]夜10:04〜
コーヒーブレイク・インタビュー

[第4・5]夜10:04〜
交わりのことば

新 夜10:31〜
聖歌を味わう
[10〜12月]
テゼ・和解のうた
植松 功
['21.1〜3月] 正教会
マリア松島純子

諸所の企画案内

真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山　２０２２年 ― 祈りの集いのご案内

イエス様のように祈る

毎月第２木曜日（１０:００～１５:００）

指導者　フランコ神父

１月１３日　「御旨を行う」(詩編４０：９)
２月１０日　「私が父の家にいるのは」（ルカ２：４９）
３月１０日　「イエスも洗礼を受けて祈っておられると」（ルカ３：２１）
４月　７日＊　「イエスはひざまずいてこう祈られた。父よ、
　　御心なら、この杯を」（ルカ２２：４２）
５月１２日　「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます」（マタイ１１：２５）
６月　９日　「イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた」
　　（ルカ６：１２）
７月１４日　「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します」
　　（ヨハネ１１：４１）
８月　　休み
９月　８日　「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」（ルカ２３：４６）
１０月１３日　「イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて」（ルカ２２：１９）
１１月１０日　「イエスは天を仰いで言われた。父よ・・・」（ヨハネ１７：１）
１２月　８日　「天におられる、私たちの父よ・・・」（マタイ６：９）

予約は前日の１６：００まで

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先
真命山　諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com
tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、

予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を

現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を

当会のHPに掲載いたしますので、

そちらをご覧いただければ幸いです。

担当　中山真里

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ノートルダム　・　ド　・　ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

http://sadhana.jp/　　申込み受付・・開始日の８日前まで

コース	日　時	指導	開催場所	申込み
フォローアップ	4/10(日) 9:30-17:00	Fr植栗	シャルトル聖パウロ修道女会九段修道院 (千代田区九段北)	来間(くるま)　裕美子※ 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo.co.jp
入門Ａ	4/24(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会リヒト宣教会 (市ヶ谷)	
リピーターの会 @那須	4/29(金・祝) 9:00- 5/1(日)14:00 (前泊可)	同上	ベタニア修道女会ヨゼフ山の家 (栃木県那須郡那須町)	
ダイアリー	5/2(月)17:30- 5/6(金)16:00	同上	上石神井無原罪聖母修道院(練馬区)	
名古屋入門Ａ	5/15(日) 9:30-17:00	同上	聖霊会　八事修道院　ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.
入門Ｂ	5/22(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会リヒト宣教会 (市ヶ谷)	来間(くるま)　裕美子※
沖縄 フォローアップ	6/3(金)9:00- 6/4(土)18:00 ※通いも可能です	同上	伊江島教会 (沖縄県国頭郡伊江村)	佐藤芳樹 080-3188-6573 jonah3295@gmail.com
沖縄Ｉ＆ アドバンス	6/5(木)9:00- 6/6(月)18:00 ※通いも可能です	同上	同上	

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、

090-5325-2518（来間）までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子　Tel＆Fax ： 042-325-7554

★変更になる可能性があります。

●フォローアップおよびリピーターへの参加…
　サダナＩを終えていること。

念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日
　　１４：００～１６：００(講話と念祷)
主催：慈しみ深き会

指導：九里（くのり） 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2022年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの
指示により、当分の間中止となりました。
再開については、再度紙面にてお知らせ致します。

連絡先：篠原 三恵子
Tel:042-473-6287
e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

『霊性センターニュース』
＊郵送お申込みのご案内＊

ご郵送は、基本的に１月から 12 月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から 12 月までとなります。
例：６月申込の場合は、７月号~12 月号（但し８月号は休刊）となり、
５冊となります。　ご希望の月数×250 円程度の献金を下記口座へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等ご明記ください。
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp
Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき　　・・・つぶやき・・・

またしても、全国 34 都道府県に蔓延防止重点措置が適用され、わたしたちの行動も自粛せざるを得ない日々が続きます。さすがに、自粛疲れのようなものを感じ始めるこの頃です。

そのような中、久しぶりに 2020 年 3 月 27 日パンデミックの初めの頃に、サンピエトロ大聖堂前で、フランシスコ教皇が全世界に向けて祝福を祈られた時のメッセージを読み返しました。冒頭の巻頭言はその一部です。

読み返してみて、教皇様はあの時点で、この長いパンデミックの中での人類の歩みを見抜いておられたことに驚きと感銘を覚えています。そして、次の言葉をあらためてかみしめなおしているところです。

> 四旬節の今、あなたの差し迫った呼びかけが響きます。「今こそ、心から私に立ち帰れ」（ヨエル 2･12）。
>
> 主はこの試練の時を選びの時とするよう求めておられます。あなたの裁きの時なのではなく、わたしたちの決断の時です。何が重要で、何が過ぎ去るものなのかをえり分ける時、必要なものとそうでないものとを見分ける時です。主なるあなたに対しての、他者に対しての、生きる道を定め直す時です。

自室の机の前の壁にこんなポスターを張って眺めています。

「嘆き禁止」
あなたと他の人々の人生が
より良いものとなっていくように
自ら行動しなさい。

フランシスコ教皇様の自室の入り口に貼ってあるというポスターです。

教皇様に倣って、「人類の発展の真価が問われるこの苦境の中で」、嘆かずに、心して四旬節の日々を主の復活に向けて歩むことを自らに言い聞かせています。

主において、祈りのうちに…

中川博道 o. c. d.

DECOR

REGINA CARMELI